TOYOTOMI

トヨストーブ

トヨホームヒーター

取扱説明書

型式 **HH-S23E**（エッチ エッチ エス イー）

石油こんろ
日本工業規格品

このたびは本品をお買いあげいただきまことにありがとうございます。

●ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をお読みいただき、正しく使用してください。

この「取扱説明書」は、保証書と共に大切に保管しておいてください。

●取扱説明書を紛失された場合は、お買上げの販売店にご相談ください。

もくじ

V03-1

株式会社 トヨトミ

3380000905

安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 危険(DANGER)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

	この絵表示は、「禁止」されている内容です。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

●説明文中の「お願い」事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

⚠ 危険 (DANGER)

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。

ガソリン禁止

⚠ 警告 (WARNING)

★カーテン、可燃物近接厳禁

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。
こんろの周囲に可燃物を置かないでください。
こんろの熱気で着火して、火災の原因になります。

禁止

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
乾燥するとこんろの熱気でゆれて落下して、火災の原因になります。

禁止

★換気必要

換気せずに使用しつづけないでください。
酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
使用中は必ず1時間に1〜2回(1〜2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。
(窓の凍結、地下室など)換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。

換気

★寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず火が消えていることを確認してください。
予期しない事故が発生するおそれがあります。

消火

★空だき厳禁

なべ、やかんやフライパンなどは、空だきしないでください。
空だきすると内部に熱がこもって、火災や故障の原因になります。

禁止

★給油時消火

給油は、必ず消火し、こんろの温度が充分に下がってからおこなってください。
燃焼中は絶対に給油しないでください。火災の原因になります。

消火

★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ガスボンベなどを、こんろの上や周囲に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

禁止

★可燃性ガス使用厳禁

こんろを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)、スプレーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。

使用禁止

★調理中はこんろから離れない

煮物等調理したまま、こんろから離れないでください。食材がこげたり燃えたりして火災の原因になります。
電話や来客などでこんろから離れる場合は、いったん火を消してください。

禁止

⚠注 意（CAUTION）

★居室内給油禁止

禁 止

給油は、必ず火の気のないところでおこなってください。
火災のおそれがあります。
こぼれた灯油は、よく拭き取ってください。

★変質灯油禁止

禁 止

変質灯油（持ち越した灯油など）、不純灯油（灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など）を使用しないでください。
異常燃焼や故障（しんが下がらない、点火できない、火が消えない）の原因になります。

★燃焼中移動禁止

禁 止

火のついたまま持ち運ばないでください。
やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災になるおそれがあります。

★異常時使用禁止

使用禁止

におい、すすの発生、炎の色など異常燃焼を起こしたときは、使用しないでください。
緊急の場合でもあわてずに、しんを下げて消火してください。

★移動・運搬するときの注意

指 示

こんろを移動する場合は、必ず消火し、こんろの温度が充分に下がってから、傾けないように静かに移動してください。
修理・引越しなどで、こんろを運搬される場合は、電池ケースから乾電池を取りはずし、油タンクの灯油を必ず抜いてください。運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。

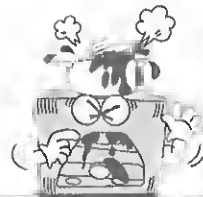
★大なべ禁止

禁 止

大きななべ、鉄板、（指定以外の補助具）をのせないでください。
内部に熱がこもったり、炎が横にのびたりして異常燃焼のおそれがあります。
不安定なやかん、なべ、フライパンなどは使用しないでください。転倒するおそれがあります。

★煮こぼれ注意

注 意

煮炊きをおこなう場合は、煮こぼれさせないよう火力の調節をおこなってください。
煮こぼれ汁が、しんや点火部、感震部にかかりますと、着火不良を起こしたり、しんが下がらなくなったり、異常燃焼や故障の原因になります。

★高温部に注意

高温注意

燃焼中や消火直後は、燃焼筒の上部から高温の熱気がでています。手や顔などを近づけないでください。
やけどのおそれがあります。

★高温部接触禁止

接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、こんろの上面に手などをふれないよう注意してください。
やかん、なべ、フライパンなどの取っ手が加熱されていることがありますので、やけどに注意してください。

★高電圧注意

感電注意

点火装置は、点火時に高電圧が発生します。点火プラグに不用意にさわらないでください。
感電のおそれがあります。
掃除、点検・手入れ時は、必ず乾電池を取りはずしてからおこなってください。

★ほこりの除去

指 示

置台、製品内部のほこりをときどき除去してください。
油タンクの下から燃焼用空気を吸いこみますので、紙、ビニールなどを入れないように注意してください。
ごみ、ほこりなどがつまると、異常燃焼や火災の原因になります。

★対震自動消火装置の作動確認

確 認

使用開始時と、使用中は1箇月1回以上、対震自動消火装置を作動させて確実に消火することを確かめてください。
確実に消火しないときは使用しないで、すぐに修理してください。

★純正部品の使用

指 示

しんなどの部品は、必ずトヨストーブ純正部品（指定部品）を使用してください。
純正部品を使用しないと、こんろの性能を損なうばかりでなく、故障や予想しない事故が発生するおそれがあります。

⚠ 注 意 (CAUTION)

★分解修理・改造の禁止

分解禁止

故障、破損したら使用しないでください。
こんろは、絶対に改造して使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。

★お子様やお年寄りのご使用に注意

注 意

お子様やお年寄り、体の不自由な方がお使いになる場合は、こんろの取扱い、部屋の換気、高温部への接触によるやけどなどについて、周囲の人が充分に注意してください。

★保管時にしていただくこと

指 示

- 長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず灯油を抜いて、電池ケースから乾電池を取りはずしてください。傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
  火災のおそれがあります。
- しんの手入れ（から焼きクリーニング）は、風があたる場所ではおこなわないでください。火災のおそれがあります。

★廃棄するとき

指 示

こんろを廃棄処分するときは、必す油タンク内の灯油を抜き取り、電池ケースから乾電池を取りはずしてください。(13ページ参照)
灯油や乾電池が入ったまま廃棄するとリサイクルの際、予想しない事故が発生するおそれがあります。

★次の場所では使用しない

火災や予想のできない事故や故障の原因になります。

使用禁止

水平でない場所、不安定な場所

- 傾斜した場所や振動の激しいところでは、使用しないでください。
  対震自動消火装置が誤作動することがあります。
- しっかりしたじょうぶな床面で使用してください。
- 移動車両の中や、不安定な台の上で使用しないでください。
  転落したり、火災になるおそれがあります。

周囲を囲われた場所

熱が内部にこもったりして、異常燃焼や故障の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所

粉類や繊維を取扱う場所や温室・養鶏場など、塵やほこりの多い場所では使用しないでください。
燃焼用空気（酸素）を取入れる箇所が目づまり状態になり、異常燃焼を起こすおそれがあります。

温室・飼育室など人のいない場所

使用環境の変化で、予測しない事故が発生するおそれがあります。

風のあたる場所、部屋の出入口（屋外）

- 風のあたる場所や屋外では使用しないでください。炎が出て危険です。
- 掃除機の排気があたらないように注意してください。
- 部屋の出入口など人の通る場所、人がぶつかったり、つまずく場所で使用すると、転倒して事故や火災が起きるおそれがあります。

不安定な物をのせた棚などの下

落下物により火災が起きるおそれがあります。

直射日光のあたる場所、温度の高い場所

異常燃焼を起こすおそれがあります。

可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所

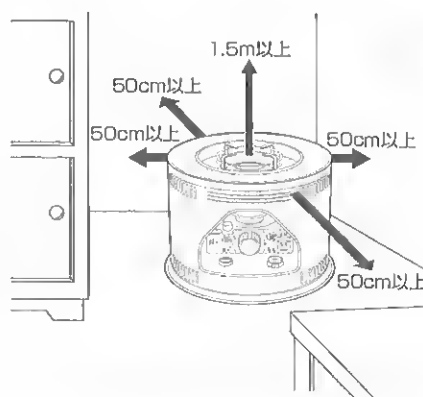
爆発や火災の原因になります。

理･美容院､クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所

化学薬品がこんろの熱で変化し、器具の故障や、腐食性ガスの発生により金属・鏡・ガラスなどを傷める原因となります。

★可燃物（木壁、合板、ふすまなど）との距離を離す

距 離

- こんろから可燃物の距離は右図の指定以上の距離を保つようにしてください。
- こんろの上方の棚などとの距離は必ず1.5m以上あけてください。
- 上方の棚などからの落下物がないようにしてください。
- カーテンなどがこんろにふれないようにしてください。
- 家具等からは右図の指定以上の距離をとってください。（熱で変形や変色、自然発火することがあります。）

お願い (NOTICE)

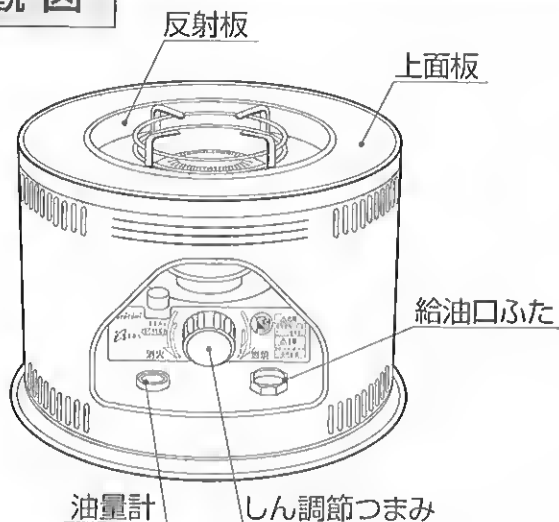
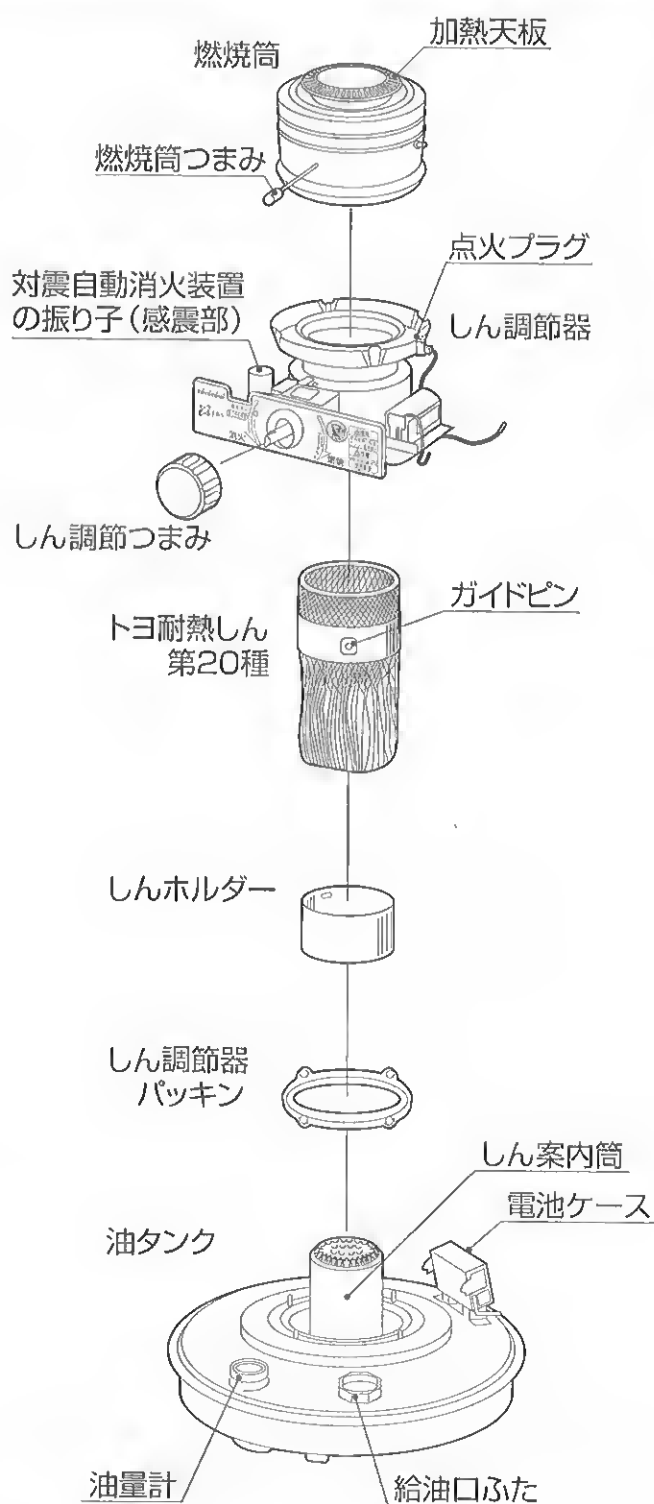
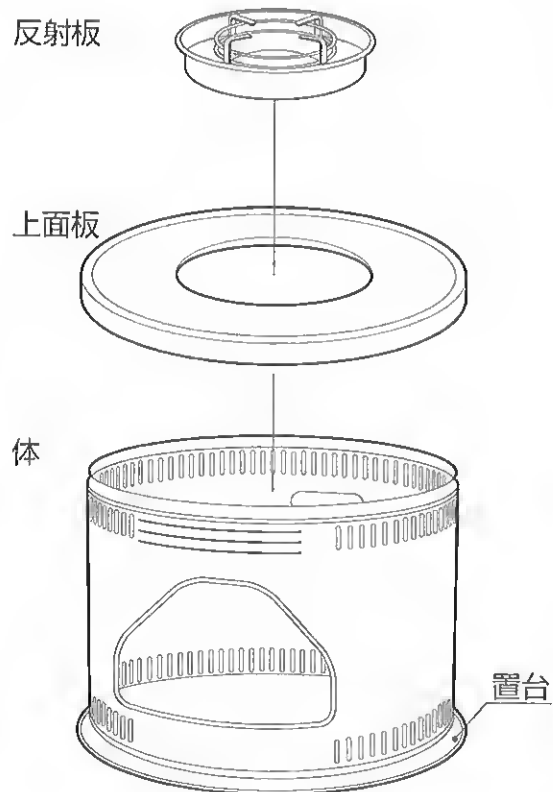
★灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

使用する場所

★効果的に使用するために

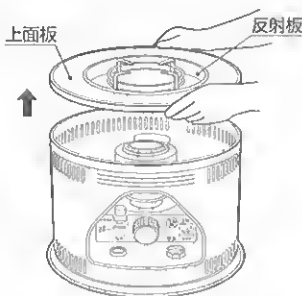
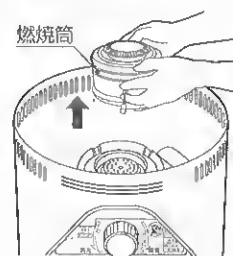
- このこんろは、なるべく部屋の中央に置いてください。対流効果によってお部屋の温度のムラが少なくなり、効果的な暖房ができます。ただし、部屋の出入口や人の通る場所、風のあたるところ、可燃物のそばには置かないでください。
- 部屋の空気をサーキュレータなどで対流させますと、室内空気の温度ムラがより少なくなり、さらに効果的に暖房できます。（このときこんろには直接風をあてないでください。）
- **幼いお子様のいるご家庭では、とくに湯わかしなどでやけどをしないように注意してください。**

各部のなまえ

製品の取り出しと部品の装着

1 包装箱に表示してある「包装の内容」をごらんになったうえで包装箱から、包装材を取り除き、製品に傷をつけないように取り出してください。

お願い

包装材は可燃物ですから、必ず取り除いてください。

2 製品の上面の包装材を取り除き、反射板と上面板を取りはずしてください。

3 燃焼筒を取り出してください。

4 しん調節器の上部を持って油タンク全体を左に(↺)回してから、持ち上げて取り出してください。

- 油タンクを持ち上げるときは、手を滑らせたり、体の内側などでけがをしないように、ゆっくりと慎重におこなってください。

燃　料

◉燃料は灯油(JIS1号灯油)を必ず使用してください。
◉変質灯油、不純灯油は、絶対に使用しないでください。

⚠ 危険	★ガソリン使用禁止 ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも、火災の原因になります。

- 誤ってガソリンなどの燃料を使用したことがわかったときはあわてずに、対震自動消火装置の振り子を押し倒して消火してください。
- 変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)は、絶対に使用しないでください。異常燃焼や故障の原因になります。
- 市販されている助燃剤(添加剤)は使用しないでください。異常燃焼を起こすおそれがあります。

灯油とガソリンの見分けかたのポイント

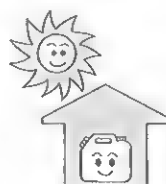
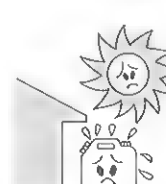
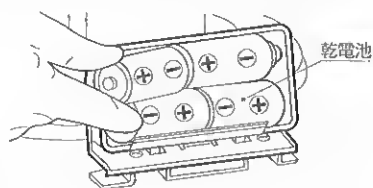
指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます
(火の気のない所でおこなってください。)

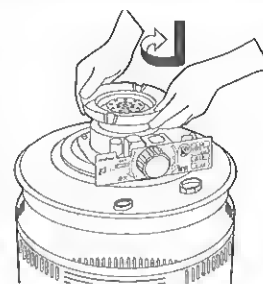
○ 灯油	× ガソリン
濡れたままです。	すぐに乾いてしまいます。

お願い

変質灯油や不純灯油が原因でアフターサービスを依頼されたときは、保証期間中でも有料修理となります。

◉灯油の保管のしかた

- 灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
- 灯油容器は専用のきれいな容器を使用してください。また灯油容器は必ずJIS認定品で色つきの灯油専用容器を使用してください。
- 灯油容器内の灯油が少ないと温度変化により結露して水がたまることがあります。
- ドラム缶などで、長期間大量に保管しないでください。
- お子様の手のとどかない所に保管してください。

○ 良い保管	× 悪い保管
直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管。	直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管。

5 市販の単二形乾電池（4個）を購入の上、油タンク上面の電池ケースに、⊕⊖を正しく合わせて入れてください。

- 乾電池は別売です。
- 新しい乾電池と古い乾電池、種類の違う乾電池を混ぜて使用しますと、点火できなかたり、点火しにくくなったり、液漏れや破裂する原因になります。
- 乾電池は、保管状態などにより短時間で消耗することがあります。
  点火しにくい場合は、早めに新しい乾電池〔単二形乾電池：4個〕に交換してください。
- 寒冷地では、アルカリ乾電池（LR14）のご使用をおすすめします。

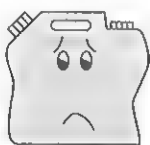
6 油タンクを、体に入れてください。
油タンクの上面の表示（刻印）を参考にして、しん調節器の上部を持って、油タンクを水平に保ちながら体の中に入れ、右（↻）に止まるまで回して固定してください。

7 燃焼筒を、しん調節器の上に正しくセットしてください。

8 上面板と反射板を、体に取り付けてください。

お願い

その他、製品の輸送中に生じたねじのゆるみや、はずれなどがないか調べてください。

変質灯油とは

- 古い灯油。（ひと夏持ち越した灯油）
- 長期間、日光の当たる場所や、温度の高い場所に保管した灯油。
- 容器のふたが開けてあったり、乳白色の容器で保管した灯油。

不純灯油とは

- 灯油以外の油（ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など）がほんの少しでも混入した灯油。
- 水やごみが混入した灯油。

変質灯油・不純灯油の見分けかた

コップに水を入れ、次に灯油を入れて背後に白い紙をあてます。

水と同じ無色透明なら正常。	少しでも色がついていたら使用しない。	変質のひどいものは黄色味をおびたり、すっぱいにおいがします。 変質灯油や不純灯油の見分けかたはたいへん難しいので、メーカーのはっきりしない灯油は使用しないでください。

変質灯油や不純灯油を使用すると

- 変質灯油や不純灯油を使用しますと、しんに多量のタールがたまり、点火しにくくなったり、しんが上下しにくくなったり、炎が大きくならなくなったり、激しいにおいがしたりします。
  また、消火時にしんが下がらず火が消えなくなります。
- 水の混入した灯油を使用しますと、しんが上下しにくくなったり、油タンクに灯油が残っていても炎が小さくなり、異常燃焼を起こして激しいにおいがしたり、火が消えたりします。
- ガソリン、シンナーなど、揮発性の高いものが混入した灯油を使用しますと、火災の原因になります。

万一変質灯油や不純灯油を使ったときの処置のしかた

1 油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を2～3回洗浄してから良質の灯油に入れ替えてください。（悪い灯油が残っていると再発します。）

2 しんの手入れをする（13ページ参照）を見て、しんの先端の固くなっている部分をラジオペンチなどで軽くつぶしてから、から焼きクリーニングをおこなってください。（水が多量に混入した場合は、しんを取り替えてください。）

3 しんの手入れをおこなっても効果のないときや、水が多量に混入した場合は、しんを取り替えてください。または、販売店までお問い合わせください。

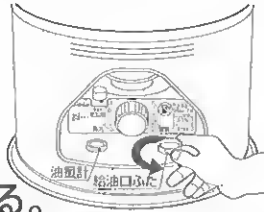
- **変質を防ぐため灯油は翌シーズンに持ち越さないようにしてください。**

給油のしかた

灯油の補給は、油量計が「0」を示す前に給油してください。

⚠警告	給油は、必ず消火して、こんろの温度が充分に下がってからおこなってください。 燃焼中は絶対に給油しないでください。火災の原因になります。	消火
⚠注意	給油は、必ず火の気のないところでおこなってください。 火災のおそれがあります。こぼれた灯油は、よく拭き取ってください。	禁止

1 消火を確かめる。

必ず消火していることを確認してください。

2 給油口のふたを開ける。

給油口のふたを、左「↺」に回して取りはずしてください。

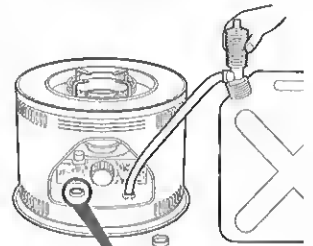
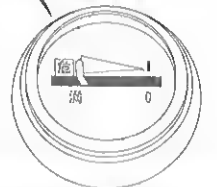
3 油量計を見ながら給油する。

- 市販の給油ポンプなどで、油量計を見ながら給油してください。(ホースが抜けないように注意しながら給油してください。)
- 灯油は、油量計の「満」の位置まで給油してください。
- 入れ過ぎますと、あふれ出ることがありますので充分に注意してください。
- オートストップ付電動ポンプを使用する場合は、ホースが油タンクに固定できないので、必ず、ホースが給油口から抜けないように手で固定しながら使用してください。

4 給油口ふたをしっかりしめる。

給油口ふたを、しっかりしめてください。

5 こぼれた灯油はよくふき取る。

- こぼれた灯油は、必ずきれいにふき取ってください。油タンクの下まで灯油がこぼれた場合は、油タンクを取り出し(14ページ参照)、置台の上にたまっている灯油を拭き取ってください。
  火災の原因になります。
  また、燃焼中に臭気を発生する原因にもなります。
- 灯油容器のふたも、しっかりしめてください。

点火前の準備と確認

水平の確認

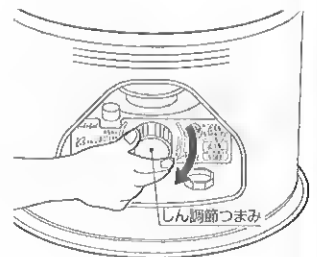
●水平な場所で使用してください。

- こんろは、必ず水平な安定した場所で使用してください。
- こんろが、傾いていないか、不安定な状態になっていないか、必ず確かめてください。
  こんろを傾いた状態で使用しますと、対震自動消火装置が誤作動することがあります。また、転倒しやすく、異常燃焼の原因になります。

対震自動消火装置のセット

(再セットする場合も同じ手順です)

●しん調節つまみを「燃焼」の方向へ回す。

- しん調節つまみを、「燃焼」の方向(↻)に、ゆっくり止まるまで回してください。
  (対震自動消火装置が自動的にセットされます。)
  「点火」の位置まで回しますと着火します。
- 対震自動消火装置をセットするときには、「カチカチ」と音がして、少し重くなります。

点火前の確認

●燃焼筒のセットを確認する。

- 点火操作をする前には、必ず燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、燃焼筒つまみを左右に2〜3回動かし、スムースに動くことを確かめてください。

お願い

燃焼筒が、しん調節器に正しくセットされていなかったり、しんの上にのっていると、すすが出て異常燃焼し危険です。

- こんろの周囲や置台の上に、こぼれた灯油や、布、紙、マッチなど、可燃物がないことを確認してください。
  可燃物があると火災のおそれがあります。

点火のしかた

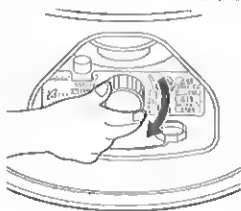
お願い

使い始めや、しんの交換後、しんの手入れ（から焼きクリーニング）をしたときは、給油後約15分以上待って、しんに充分な灯油が吸い上げられてから点火してください。充分に吸い上げられていない状態で点火しますと、しんを傷めます。

- 始めてお使いになるときは、点火後、器具に付着しているほこりや油が焼けるにおいがしますが、しばらくお使いいただければにおいはなくなります。
- 点火後しばらくの間は、炎が安定せず，「ボッ，ボッ，ボッ」と燃焼音がしますが，しばらくすると炎が安定し，音がしなくなります。

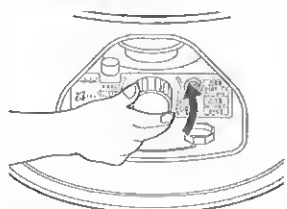
電池点火のしかた

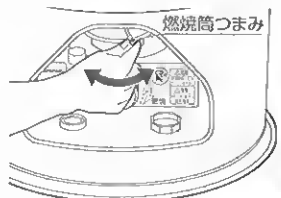
1 しん調節つまみを「点火」の方向へゆっくり回す。

- しん調節つまみを，「点火」の方向（↻）に，ゆっくり完全に止まるまで回してください。（しんが上がり点火します。）
- 点火操作の途中で「ピィー」と言う放電音がしますが，しん調節つまみはそのまま止まるまで回してください。

2 火が着いたことを確認する。

- 火が着いたことを確認したら、手をしん調節つまみからゆっくりはなしてください。
- 火が着いた後もしん調節つまみを回しきったままですと、乾電池の消耗が早くなります。またカーボンが付着して，点火しにくくなる原因になります。

点火しにくい場合は

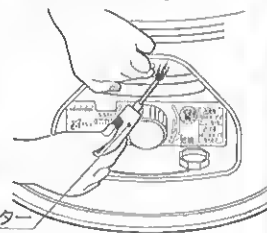
- 点火プラグ付近から白煙が出て点火しにくい場合は，しん調節つまみを少し戻してから，再び「点火」の方向に**ゆっくり止まるまで回す**と点火しやすくなります。
- 12ページの しんの修正 の項も参照してください。（ゆっくり操作することがコツです。）
- **しんにタールやカーボンが付着したり、煮こぼれ汁がかかったり、点火プラグが汚れてくると、点火しにくくなります。点火プラグの掃除、しんの手入れをおこなってください。（12・13ページ参照）**
- 乾電池の電圧が不充分で点火しにくい場合は，新しい乾電池〔単二形乾電池4個〕をご購入のうえ、交換して使用してください。

3 燃焼筒のセットを確認する。

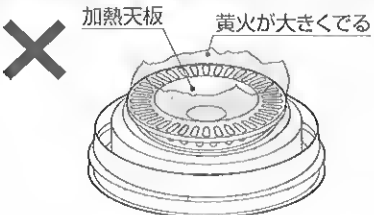
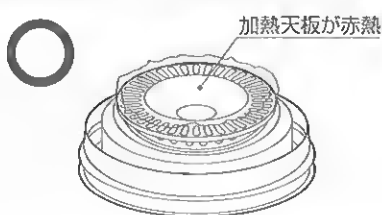
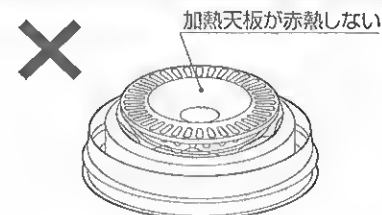
点火操作後、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確かめてください。

電池点火が使えないとき

1 しん調節つまみを「燃焼」の方向へゆっくり回す。

しん調節つまみを，「燃焼」の方向（↻）に，ゆっくり完全に止まるまで回してください。

2 マッチや市販の点火用ライターで点火する。

- 燃焼筒つまみを持ち上げ，マッチや市販の点火用ライターなどを使ってしんに火を着けてください。
- たばこ用のライターで点火しないでください。
- **マッチで点火した場合は，マッチの燃えかすをしん付近や器具内に落としたり，置台の上に置かないでください。事故や火災の原因になります。**

3 燃焼筒のセットを確認する

- 火が着いたことを確認したら、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし，燃焼筒が正しく調節器にセットされているか，しんの上にのっていないかを必ず確かめてください。
- マッチや点火用ライターで点火したときは，火が着いたことを確認したら，しん調節つまみを少しだけ（点火した火が消えない程度に）消火の方向に回してみて，引っかかりがなくスムースにしんが下げられることを確認してから、もう一度しんを上げて使用してください。
  しん調節つまみがスムースに回らないときは，しんを完全に下げてから、点火操作を始めからやり直してください。

炎の調節のしかた

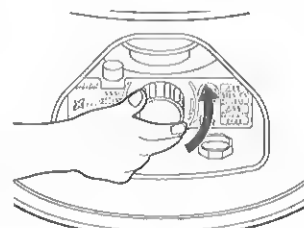
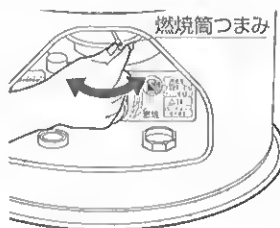
炎の調節

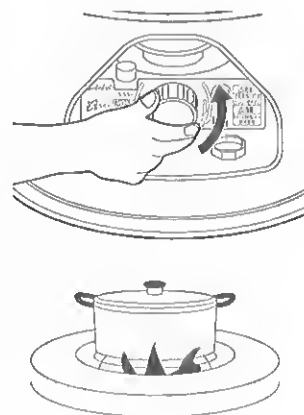
- 炎の調節は、しん調節つまみを回しておこないます。
- しん調節つまみを回して炎を調節するときは、**炎の状態** のイラストをよく見て、必ず正常燃焼の範囲で使用してください。

炎の状態

正常燃焼状態は、加熱天板が赤熱し、黄火が出ない状態です。

異　常	正　常	異　常
✕ 加熱天板　黄火が大きくでる	○ 加熱天板が赤熱	✕ 加熱天板が赤熱しない
しんの上げすぎ （黄火が大きくでる）	正常燃焼	しんの下げすぎ （加熱天板が赤熱しない）
すすや一酸化炭素が多く発生します。	（加熱天板が赤熱し、黄火が出ない状態。）	においや一酸化炭素が多く発生します。

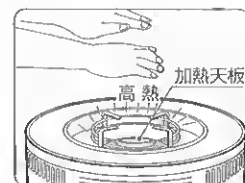
- 点火後、2～3分程で炎が立ち上がってきたとき、燃焼筒つまみを左右に軽く2～3回動かしますと、炎が早く安定します。
- 10分ほどで炎は全周ほぼそろいますので上図の加熱天板の上に黄火が大きく出る状態（しんの上げすぎ）のときや加熱天板が赤熱しない状態（しんの下げすぎ）のときは、しん調節つまみを回して（しんを上げ下げ）炎を正常燃焼の状態に調節してください。

なべや、やかんをのせる場合の注意

- **なべや、やかんをのせたときには、必ず火力の調節をしてください。**
  なべ等をかけて1～2分たったら、黄火が出ないように、しん調節つまみを「ニオイセーブ消火」の方向（↻）に回して、しんを下げて調節してください。
- 最大火力のままで、なべや、やかんをのせますと、炎の出る所がなべ等の底で制限され、火力が余って黄火やすすの出ることがあります。はみ出した炎によりなべなどの取っ手が加熱され、やけどや取っ手の焼損の原因になります。
- **燃焼中は、ときどき炎を見て、炎が出すぎないように調節してください。**
- なべの種類によっては、傾いたり、すべりやすいものがあります。不安定な状態では使用しないでください。中華なべなどの底の丸いなべは、必ず鍋の取っ手を持ちながら使用してください。
- しんを上げて火力を強くする場合には、炎が一時的にのびて、なべややかんの底にすすがつくことがありますので、ゆっくりとしんを上げて調節してください。

お願い

上面板は、樹脂加工がほどこしてありますから、熱い物をのせたり大きななべをのせて炎が横にのびたりすると、焼けて跡がつきますので注意してください。

手あぶりなどの場合の注意

- 手あぶりの場合などは、燃焼筒の真上にうっかり手を差し出したりしてやけどをしないよう充分に注意してください。

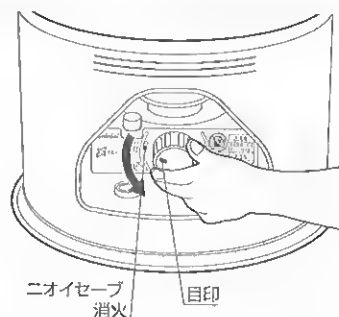
⚠注意	燃焼中や消火直後は、高温部、こんろの上面に手などをふれないよう注意してください。 また、燃焼筒の上部から高温の熱気がでています。手や顔などを近づけないでください。やけどのおそれがあります。

火力を弱くする場合の注意

- **火力を最も弱くした場合でも、加熱天板が赤熱した正常燃焼状態で燃焼してください。火力をあまり弱くして、加熱天板が赤熱しないとろ火で燃焼しますと、こんろ内に熱がこもり、においや一酸化炭素が多く発生し、しんにタールが付着したり、こんろのいたみを早めたりします。**

消火のしかた

通常の消火の場合

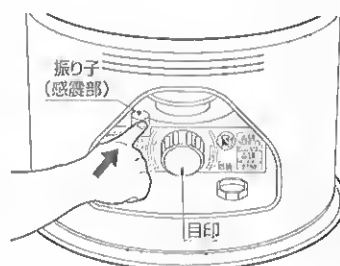
1 しん調節つまみを「ニオイセーブ消火位置」まで、ゆっくりと回す。

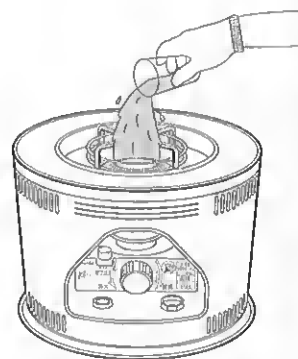
- しん調節つまみを「ニオイセーブ消火」の方向（↻）に、止まるまでゆっくり回して消火してください。（速く回すとにおいが出やすくなります。）
- しん調節つまみの目印が「ニオイセーブ消火」の位置にあることを、必ず確認してください。

2 消火を確認する。

- 火が確実に消えたことを確かめてください。
- においを少なくするため、3分程度燃焼（炎が一部残る）して消火します。消火操作後は、火が確実に消えたことを必ず確かめてください。

緊急の消火の場合

対震自動消火装置の振り子を押し倒す。

- 対震自動消火装置の振り子（感震部）を、押し倒してください。しん調節つまみの目印が「真下」にあり、火が消えたことを必ず確認してください。
（このとき急速に消火させるため、炎が伸びたり、すすや臭気が発生することがあります。）
- 対震自動消火装置の振り子を倒してもしんが下がらず消火できない場合は、対震自動消火装置の振り子（感震部）を押し倒しながら、しん調節つまみを「ニオイセーブ消火」の方向（↻）に回してしんを下げてください。
それでもしんが下がらない場合は、火が消えるまで燃やしきってください。
- 時間に余裕がないときは、燃焼筒の上に、コップ1杯（200mℓ程度）の水をかけて消火してください。

水をかけると水蒸気が出たりします。あわててヤケドをしないように、手袋をはめるか､手にタオルを巻くなど手を保護してからおこなってください。また、あとで油タンク内の水の入った灯油を抜き、しん交換が必要です。

- **しんが下がらない原因は、しんにタールがたまっていたり、水を含んでいることがありますので、しんの手入れ（13ページ参照）をおこなうか、新しいしんに交換してください。**

消火後再点火するときの注意

消火後、約5分間は再点火しないでください。燃焼筒が冷えきらないうちにしんを上げると、生ガスが発生し、激しい臭気がでたり、点火しないことがあります。

対震自動消火装置

- **対震自動消火装置は、こんろ本体が地震（震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に消火させる安全装置です。**
- **地震によって作動した場合は、周囲の可燃物がたおれていないか、機器の損傷はないか、油がこぼれていないかなど異常がないことを確認した後、再点火してください。**

対震自動消火装置の取扱い上の注意

- 通常の使用時には、しん調節つまみを回して消火してください。消火の都度に対震自動消火装置を作動させますと、臭気が発生します。
- 煮こぼれをしないように注意してください。しんに煮こぼれ汁が付着すると、しんが下がらなくなったり、対震自動消火装置が作動しても消火性能が著しく悪くなり、火災の原因になります。
- こんろを持ち運んだり掃除するときなどは、しん調節つまみで消火した後、対震自動消火装置の振り子（感震部）を押し倒して対震自動消火装置を作動させ、しんを下げてからおこなってください。
- こんろを長い間使用しないときは、対震自動消火装置の振り子（感震部）を押し倒して対震自動消火装置を作動させ、しんを下げた状態にしておいてください。セットしたまま放置しますと、対震自動消火装置の寿命に悪影響をあたえます。

振り子
（感震部）
目印

点検・手入れのしかた

点検・手入れをおこなうときは

- こんろを消火し、本体の温度が充分に下がってからおこなってください。
- 手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
- 対震自動消火装置の取りはずし、分解はおこなわないでください。

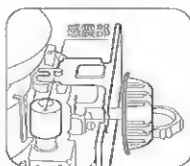
使うたびに

点検箇所	点検内容	処置方法
こんろの周囲	●こんろの周囲に可燃物や障害物がありませんか。 [火災の原因になります]	●常に整理や掃除をし、可燃物をこんろの周囲に置かないでください。
油こぼれ 油たまり 油にじみ	●油タンク、置台の表面に油がこぼれたり、たまったり、にじんでいませんか。 [火災の原因になります]	●こぼれたり、たまったり、にじんだ油はきれいにふき取ってください。
油漏れ	●油漏れはありませんか。 [火災の原因になります]	●油が漏れている場合は、すぐに使用をやめ、お買い求めの販売店に修理依頼をしてください。

1箇月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
油タンク	●油タンクの中に、水やごみがたまっていませんか。 [不完全燃焼したり、火が消えてしまいます]	●給油口ふたをはずして、市販の給油ポンプなどで、油タンクの中の水やごみを吸い出してください。 （13ページ 保管 参照）
ほこり	●置台の上などに、ほこりがたまっていませんか。油タンクの下の隙間に物が入りこんでいませんか。 [異常燃焼や火災の原因になります]	●油タンクを取りはずし、たまったほこり、ごみなどを、電気掃除機で吸い取ったり、雑巾などでふき取ってください。
対震自動消火装置	●しん調節つまみを回してしんを上げてから、置台をゆすると、対震自動消火装置が作動し、そのときしんが下がり、しん調節つまみの目印が**「真下」**位置に戻りますか。 [確実に消火することを確認]	●しん調節つまみの目印が**「真下」**位置に戻らない場合は、**しん**、**感震部**の項の点検をしてください。 ●販売店に修理依頼をしてください。

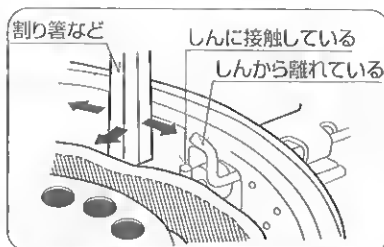
2箇月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
乾電池	●点火プラグのスパーク音は、「ピィー」と鳴りますか。 [乾電池の電圧（消耗）点検]	●音がかすれる場合は電圧が下がっています。新しい乾電池に交換してください。
燃焼筒	●燃焼筒の細かい穴に燃えかすや、すすが付着していませんか。 [異常燃焼の原因になります]	●ブラシなどを使って、燃えかすや、すすを取り除き、きれいに掃除してください。
しん	●しんの先端にタールが付着して、固くなっていませんか。 ●しんに煮こぼれ汁が付着していませんか。 **しんにタールが付着していたり、煮こぼれ汁が付着していると、次のような不具合が発生します。** ●消火操作をしても、しんが下がらず、消火しない。 ●しん上下の操作が重く、スムースにできない。 ●点火操作をしても、点火しない。 ●燃焼筒が赤熱しなかったり、燃焼中ににおいがする。	●タールが付着している場合は、13ページ しんの手入れをする に従って、しんの手入れをおこなってください。 ●煮こぼれ汁が付着している場合は、しんをしん調節器からはずし、よく乾燥させてからしん調節器に取り付けて、しんの手入れをおこなってください。 **お願い** ●しんの手入れは、風のあたる場所ではおこなわないでください。 ●しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をしてください。 ●しんの手入れをおこなっても効果のない場合は、新しいしんに交換してください。
感震部	●感震部にごみの付着や錆はありませんか。 [対震自動消火装置が正しく作動しません] 感震部	●ごみやほこりは、やわらかい布できれいにふき取ってください。 ●錆が多量に発生している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
点火プラグ	●点火プラグが、カーボンやタールで汚れていませんか。 ●点火プラグがしんにくい込んでいませんか。 [点火不良の原因になります]	●点火プラグが汚れているときは、12ページに従って点火プラグの掃除をしてください。 ●点火プラグがしんにくい込んでいるときは、12ページに従って**しんの修正** をしてください。

点検・手入れのしかた

点火プラグの掃除

- 上面板と燃焼筒を取り出し、電池ケースから乾電池を取り出して、マイナスドライバーなどで、点火プラグの電極や碍子部分に付着した汚れを取り除いてください。
- 掃除が終りましたら、元どおりにしん調節器に燃焼筒をのせ、乾電池を取り付けて正常に点火するかどうか確認してください。
- 点火しにくかったり、点火しない場合は、**しんの修正**をするか、もう一度きれいに掃除し直してください。
  又、**しんの手入れ（から焼きクリーニング）**をおこなうと、点火プラグに付着した汚れが取れやすくなります。（13ページ [しんの手入れをする] 参照）

しんの修正

- 燃焼筒を取り出し、しんを上げて点火プラグ近くのしんの側面を内側に、割り箸などで軽く押さえるように撫でて、しんを整える。
- 一度しんを下げてから燃焼筒をのせ、点火してください。

●しんと点火プラグの間を少し離す

定期点検のおすすめ（2シーズンに1回）

- 長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。2年に1回程度、シーズン終了時などに、お買上げ店、または修理資格者［（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL.03-3499-2628）でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など］のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

故障・異常の見分けかたと処置方法 ―修理を依頼される前に―

故障・異常箇所	現象	点火しない・しにくい	炎が大きくならない	赤火や、すすが出て燃える	消火しない・しにくい	においがする	炎がかたよる	しんが下がらない	しん上下の操作が重い	火の回りが遅い	乾電池の消耗が激しい	処置方法
しん	しんの出過ぎ。	○		○		○						しんを下げて、炎を調節する。
しん	しんの出が少ない。	○	○			○				○		新しいしんと交換する。
しん	しんに水を含んでいる。又は油タンク内に水が入っている。	○	○			○		○	○	○		しん調節器からしんをはずし、よく乾燥させてしん調節器に取り付ける。油タンク内の水を抜く。
しん	しんにタールがついている。	○	○		○	○		○	○	○		しんの手入れをする。又は新しいしんと交換する。油タンク内の灯油を正常な灯油に交換する。
燃焼筒	燃焼筒がしんの上にのっている。			○		○	○	○				点火してから必ず燃焼筒つまみを持って左右に2〜3回動かす。
燃焼筒	しん調節器と燃焼筒との間にすき間がある。			○		○	○					しん調節器の上面にタールがついていないか、又は燃焼筒下部に不揃いがないかを調べる。揃いが悪いときは販売店に連絡する。
燃焼筒	燃焼筒の変形。			○		○	○					燃焼筒が変形していないか確かめる。変形しているときは販売店に連絡する。
燃料	灯油が変質している。（汚れた油やポリ容器で1年間持ちこした油など）	○	○		○	○		○	○	○		しんにタールがつく原因となるので、正常な灯油に交換する。
燃料	灯油が水やごみを含んでいる。	○	○					○	○	○		正常な灯油に交換する。
乾電池	乾電池が消耗している。	○										新しい乾電池に交換する。
乾電池	正しく入れていない。	○									○	正しく入れ直す。
点火装置	点火装置のコードがはずれている。	○										コードがはずれているときは正しく差し込む。その他は販売店に連絡する。
点火装置	点火装置がショート（短絡）している。	○									○	ショートしないようになおす。不明のときは販売店に連絡する。
点火装置	点火プラグの電極が正常でない。	○										点火プラグの電極が破損しているときは販売店に連絡する。
点火装置	点火プラグにしんがくい込んでいる。点火プラグが汚れている。	○										しんの修正をする。点火プラグを掃除する。（12ページ参照）
置台	油タンクの下に、ごみ、ほこりがたまっている。			○								油タンクの下を掃除する。（14ページ参照）

- この表以外の不具合があるときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

部品交換のしかた

替えしん、燃焼筒などの交換部品が必要な場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
● 部品が販売店にない場合は、別紙の お客様相談窓口一覧 までお問い合わせください。

⚠注意
しんなどの交換部品は、必ずトヨストーブ純正部品(指定部品)を使用してください。
純正部品を使用しないと、こんろの性能を損なうばかりでなく、故障や予想しない事故が発生するおそれがあります。

部品交換のときの注意

● 部品交換される場合は、下記の項目を守り、やけどや感電、けがなどしないよう注意しておこなってください。
①手をやけどしないように、こんろは消火し、温度が充分に下がるまで待ってください。
②感電しないように、乾電池は必ず電池ケースからはずしてください。
③手をけがしないように、手袋をはめてください。

しんの交換のしかた

● しんは、必ずJIS適合検査合格品「トヨ純正しん」を使用してください。

トヨ耐熱しん第20種	商品コード 11013907

しんの交換方法・注意内容は、耐熱しんに添付されている取扱説明書をお読みください。

JIS適合検査合格品はこのマークが貼ってあります。マークの色彩は白地に赤インクで表示されています。

燃焼筒の交換のしかた

適合燃焼筒	商品コード 11052506

燃焼筒が劣化して変形した場合は、お買い求めの販売店、または別紙の お客様相談窓口一覧 までお問い合わせください。

点火プラグの交換のしかた

● 点火プラグを交換するときは、お買い求めの販売店、または別紙の お客様相談窓口一覧 までお問い合わせください。

乾電池の交換のしかた

● 5・6ページ 製品の取り出しと部品の装着 を参照して、必ず4個とも市販の新しい乾電池(単二形乾電池)に交換し、⊕⊖を正しく装着してください。

不完全な修理は危険です。お買い上げの販売店か、(財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店で修理依頼されることをおすすめします。

保管(長期間使用しない場合)

1 油タンク内の灯油を抜き取る。

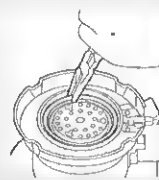
①油タンクの給油口のふたをはずし、市販の給油ポンプで油タンク内の灯油を抜き取ってください。
②油タンクに水やごみが残ったまま保管すると、さびや穴あきの原因になります。きれいな灯油ですすぎ洗いをしてください。

2 しんの手入れをする。(から焼きクリーニング)

お願い
● しんの手入れは、風があたる場所ではおこなわないでください。
● しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をおこなってください。

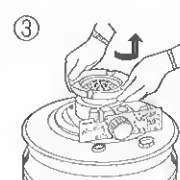
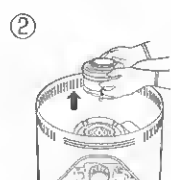
しんの手入れ(から焼きクリーニング)をして、しんの先端に付着したタール分を取り除いてください。また、しんに煮こぼれ汁が付着している場合は、しんをしん調節器からはずしてよく乾燥させてからしん調節器に取り付けて、しんの手入れ(から焼きクリーニング)をしてください。

●しんの手入れ

(から焼きクリーニング)の方法
● 次ページ3項の①〜②を参照して、反射板、上面板、燃焼筒を取りはずし、しんの先端が固くなっている時は、ラジオペンチなどで固い部分を軽くつぶしてからおこなってください。
①前項1の手順で油タンクの灯油を抜き取ってください。
②燃焼筒をしん調節器の上に正しくのせ、上面板、反射板を元通りに組付けてください。
③通常の点火操作をして、正しく燃焼させてください。
④火力が小さくなったら、しんを一杯に上げて自然に消火するまで燃やしきってください。
● しんの手入れをしても効果がない場合は、新しいしんに交換してください。

3 油タンクを取り出し、体の内部を掃除する。

①反射板と上面板を取りはずしてください。
②燃焼筒を取り出してください。
③しん調節器の上部を持って油タンク全体を左（↺）に回してから、持ち上げて取り出してください。

油タンクを取り出したり、入れるときは、手を滑らせたり、体の内側でけがをしないように、ゆっくりと慎重におこなってください。

④付着したごみやほこり等による汚れは、きれいにふき取り、水気のないようにしてください。
⑤掃除終了後は油タンクを、体に入れてください。
しん調節器の上部を持って、油タンクを水平に保ちながら体にいれ、右(↻) に止まるまで回して固定してください。
⑥取りはずした部品を元どおりに取り付けてください。

4 乾電池を取りはずす。

乾電池を取りつけたまま保管すると、液漏れしてこんろを腐食させることがあります。

5 対震自動消火装置を作動させる。

対震自動消火装置の振り子を押して対震自動消火装置を作動させ、しんを下げた状態にしてください。

6 各部の点検、掃除をする。

① 11ページの 点検・手入れのしかた の項目にしたがって、点検、手入れ、掃除をしてください。
②こんろの各部品は、よく掃除して、いたんでいるものは新しいものに交換してください。
③こんろの汚れは、ぬれた布で汚れを落とし、乾いた布で水気を取り除いてください。

お願い

高温多湿、直射日光に当たる場所には、保管しないでください。
錆が出たり、樹脂部品が変形する原因になります。

7 収納する。

包装箱の上面に表示してある「**包装の内容**」を参照して包装箱にいれ、湿気の少ない場所に保管してください。「**取扱説明書**」と「**保証書**」も忘れずに大切に保管してください。

- **灯油は、変質を防ぐため、翌シーズンに持ち越さない（使いきる）ようにしてください。**
- 取りはずした乾電池は、表示してある使用推奨期限内は、電池能力が残っていれば他の製品に使用できますので、再利用されることをおすすめします。
乾電池は、使用せずに放置・格納しておくと、自己放電で電池能力が低下します。

廃棄するとき

13ページ 保管(長期間使用しない場合) **1**項を参照して、油タンク内の灯油を抜き取り、電池ケースから乾電池を取りはずして廃棄してください。

仕様

型式の呼び	HH-S23E
種類	石油こんろ しん式・煮炊暖房用（室内用）
点火方式	電池点火 〔単二形乾電池4個・別売〕
使用燃料	灯油（JIS1号）
燃料消費量	0.219L/h
出力	2.25kW
油タンク容量	4.9L
燃焼継続時間	約22.5時間

項目			仕様
外形寸法			高さ328mm（置台を含む） 幅451mm　奥行451mm
質量			約7.4kg
しん	種類		普通筒しん （トヨ耐熱しん第20種）
しん	呼び寸法	内径	85mm
しん	呼び寸法	厚さ	2.5mm
しん	呼び寸法	吸上量	200%
安全装置			対震自動消火装置（しん降下式）

アフターサービス

保証について

● 添付しております保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。
● 保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

お願い

つぎのような原因による故障および事故につきましては、保証の対象となりませんのでご注意ください。
(1) 変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料を使用したための故障や事故。
(2) ほこりや汚れなど、手入れのゆきとどかないためにおこった故障や事故。
(3) 純正部品以外のものを使用したり、しんにタールが付着したり、水を吸ったり、乾電池の電圧不足による故障。
(4) 消耗品（乾電池、しん）の故障。
(5) この取扱説明書や、注意書、ラベル類による表示、危険・警告・注意・お願い事項が守られず、誤った使い方をされた場合の故障や事故。
● その他詳細の保証内容については、保証書の記載内容をご覧ください。

修理を依頼するとき

● 「故障・異常の見分けかたと処置方法」（12ページ）に従って、故障原因を調べてください。
直らないときは、使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にお問い合わせください。
● 連絡いただきたい内容は次の通りです。
①品名…石油こんろ
②型式の呼び…HH-S23E
③お買い上げ年月日
④故障の状況（できるだけ具体的に）
⑤おなまえ、おところ、電話番号
● 修理に際しては、保証書を提示してください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。
● 保証期間が過ぎていても、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
● 修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。

補修用性能部品について

● 石油こんろの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の保有期間は製造打切り後6年です。

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてわからない場合は、お買い上げの販売店、または、別紙の お客様相談窓口一覧 までお問い合わせください。

お客様へ…おぼえのために記入されると便利です。

型　式	HH-S23E	お買上げ年月日	年　月　日
お買上げ店名	（電話番号）（　）　—		

株式会社 トヨトミ
本　社　名古屋市瑞穂区桃園町5番17号
〒467-0855 TEL〈052〉822-1144
FAX〈052〉822-2742